

ドライブウェイ沿線や笹又道にも希少な植物が多く生育しています。
しかし、ここも鹿の食害や人間の踏み込みなどにより、絶滅の危機にあります。



調査中の本会会員

↑ チチブリンドウ(滋賀:絶滅危惧種)

本会が2008年以來、毎年継続して調査を行っている種のひとつ。右の写真は2009年地獄谷で撮影。左の写真は今年度確認の個体。一本の茎をたて、数個の花をつけるのが精いっぱいといった感じ。個体数も激減している。特に笹又横道周辺は、全く確認できない。



ホソバナツルリンドウ(滋賀:希少種) →

右上の写真は、今年度調査の個体。ドライブウェイ駐車場斜面で確認。コケに守られ、適度な湿度と十分な日光を浴びて成長しているが、つぼみの大きさや数は充分でない。右の写真は、2011年確認の個体。比べてみると、よくわかる。



イブキコゴメグサ

(滋賀:絶滅危惧種)
かつては、ドライブウェイのガードレール下にも群生していた。今年度の調査では、人間が落ちそうな崖斜面に、なんとか生き延びている。伊吹山でしか見られない固有種であり、復活を望みたい。



ヒナノキンチャク(滋賀:絶滅危惧種)

高さ15cmに満たない小さな植物。よく見るとかわいい花をつけ、植物愛好家に人気で、この笹又登山道の場所は、愛好家には有名な場所となっている。伊吹山でもここでしか見ていない。ここも鹿食害で、地肌が見えてきている。本種は一年草で、種子繁殖が基本のため、大雨により、種子の定着が困難な状態が危惧される。早急な対策が必要。

